


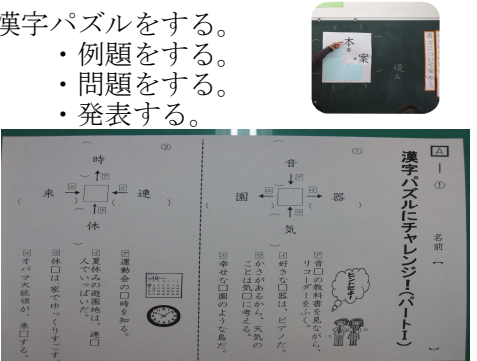
授 業 例

授業例 1 ～漢字や言葉への興味・関心を高める授業～

教科名：国語科 「漢字の読み方と使い方」(小学校5年生)

発達障害のある子どもも含め、学習面や行動面において困難を示す子どもたちが5, 6人在籍する学級です。漢字学習に対して「わからない」「漢字は嫌いだ」と苦手意識のある子どもたちもいます。
 そこで、全ての子どもにとって取り組みやすく、達成感を味わうことができ、漢字や言葉への興味・関心や意欲をもつことができるような授業づくりを行いました。
 本時は「言葉」に関する単元(全3時間)で、「複数の音をもつ漢字の読み方について理解し知識をもつことができる。」という目標を設定し実践しました。

指導案 (本時 1/3 時間目)

時間	学習活動	○指導の工夫 ◎個別の配慮 ☆評価
1分	本時の学習活動の流れを知る。	○集中力を持続できるように見えるタイマー※4を活用する。 
14分	クイズをする。 	○課題への関心をもたせるため、4つの例題を1文ずつ前半と後半の2つの短冊カードに色分けして提示し、正しい組み合わせを「ペア」で考えさせる。 ○読み方の違う漢字が含まれていることに気づかせるため、カードの並べ方を工夫し、熟語に着目させる。 ○例文中の漢字「間」を取り上げ、漢字辞典での調べ方を復習させながら、訓読み・音読みを確認させる。
1分	本時の学習課題を知る。	いろいろな音読みをもつ漢字について知ろう。
25分	漢字パズルをする。 ・例題をする。 ・問題をする。 ・発表する。 	○例題は矢印の向きに着目させ、マスキングして部分提示で考えさせる。 ○適宜、漢字辞典を使わせる。 ○ヒント付きとヒント無しのワークシートを用意し、どちらかを自己選択させる。 ○早くできた児童には2枚目のワークシートに各自取り組ませる。 ☆漢字には複数の音をもつものがあることに注目し、適切に読んだり書いたりすることができる。【観察、ワークシート】
4分	学習のふりかえりをする。	○ふりかえりの視点を示したワークシートを使う。 ◎書けていない児童には個別に助言する。

授業を行って

取組を通して、支援の必要な子も早く課題を終える子も漢字学習に積極的に取り組むことができました。一斉指導においても漢字辞典の使い方を1つ1つ確認しながら復習したことや、漢字パズルを部分提示して考えることは、子どもたちが課題に取り組む時に活用できる効果的な工夫となりました。また、学習活動の流れがわかることや、タイマーを意識することは、集中して見通しをもって活動することにつながりました。

今後も継続して漢字や言葉の力を育てる魅力ある学習活動を実施することが必要です。

授業例2 ～焦点を絞り、活動を共有する授業～

教科名：体育科「体づくり運動」（小学校1年）

学級の1/3の子どもたちに、「注意がそれやすい」「ぼんやりしてしまう」「広い場所で一斉の指示を聞くことが難しい」「指示を理解しづらい」「体を動かすことに意欲的でない」「自分の動きをコントロールする力が弱い」等の様子がみられます。

そこで、指導の内容を絞り込むとともに、学習活動に見通しをもたせるようにしました。また、子どもたち同士で互いの活動を見合い、見つけたことを共有して関わり合いを深めていく取組を行いました。

指導案

時間	学習活動	○指導の工夫 ◎個別の配慮 ☆評価
導入	1 本時の学習内容を知る。	○カラーコーンを置いて集合場所を分かりやすく示す。 ◎集合場所が分かりづらい子への支援として、前や隣の子の背中・肩等に目印になるテープを貼る。 ○本時の学習内容や活動をホワイトボードに書いたイラストを貼ったりして示す。
展開	2 用具を操作する運動遊びをする。(ボール) ・首、腰、足等、体の周りを回す。 ・足や二人組なって腰、腹に挟んで歩く。 ・弾ませる。 ・キャッチする。 ・1列に並んで前後にボール送りをする。	○体を動かす楽しさや心地よさを味わえるようテンポよく進めたり、動き(易→難)や場(1人→複数等)や用具(空気圧、素材、大きさ等)を工夫したりする。 ☆できるだけにこだわらず意欲的に取り組んでいるか。[対象：各個人] ○チームを作るときは、相手チームとの区別をつけるため、ユニホームなどの上に着るベスト状の「ビブス」を着用し、仲間の識別をしやすくする。
	3 コツや良いところを発見し、伝え合う。	○教師または子ども同士で動きを見せ合ったり、教え合ったりする。 ○学習過程を振り返られるよう、掲示物(写真・イラスト)を活用する。 ○気づきや発見を伝え合うためにコツや使った体の体の部分の名称等を共有し、共通したことばとする。 ☆自分の動きを振り返ったり、他の子の動きを見ようとしているか。 ☆運動量や活動内容の満足度・達成感は、十分であったか。


授業を行って

- ・集合場所を明示するカラーコーンや目印を活用することにより、スムーズに集合できるようになりました。今後、カラーコーンや目印の数・大きさ等を変え、少しずつ支援内容を減らしていく予定です。
- ・教師からの指示や説明を短くすることや、コツや用語を文字でも示すようにホワイトボードを活用したことは、授業中に使う言葉を共通化するとともに、子どもたちの表現を豊かにすることにつながりました。
- ・体の動かし方にぎこちなさがみられる子どもたちに、発達の段階も考慮し、指導方法の工夫を考えることが大切です。

授業例3～集中して課題に取り組む授業～

教科名：社会科 「地域の発展につくした人々」(小学校4年)

発達障害のある児童(ADHD)の在籍する通常の学級において、社会科の授業を実施しました。全ての児童が見通しを持ち集中して課題に取り組める工夫(図示、タイマー、クイズ、ワークシート等)をしながら授業を行いました。

指導案	時間	学習活動	○指導の工夫 ◎個別の配慮 ☆評価
	5分	1 本時のめあてを知る。 「なぜ木を植えるのか」	
	5分	2 100年の森について知る (3択クイズ) ・土地ができた原因 ・何のためか ・不法投棄などを放っておくとどうなるのだろうか	山の図の掲示 (画用紙で作成した山の斜面をイメージしやすくし、黒板に視点を集める) ワークシートの使用(授業展開の流れ) ・身近にある不法投棄の可能性や子どもたちの経験に基づいた話などで気づかせる。
			
		3 そこで町民がどう考えたか 「森にしよう。百年以上かかるだろうから100年の森だ。」 「木をたくさん植えて森にしないと・・・」文の続きを書く。	○考える時間を黒板に貼ったタイマーで知らせ、残り時間を分かりやすく示す。
	5分	①めあてを再提起し個人でワークシートに書く。(個人で考える)	◎机間指導をしながら個別指導を行う。 ☆森の大切さについて考える(ワークシート)
	15分	②もっともよい表現をグループで話合う。	○机間指導しながら各グループの活動状況に合わせて助言する。
	10分	4 発表・交流する。	○発表用シートに各グループでまとめた内容を代表が発表する。 (□□班の発表を始めます。 □□班の発表を終わります) ・答えは多様にあることを知らせる。
	5分	5 感想や意気込みを書く。	☆森の大切さについて分かる(ワークシート)

授業を行って

- ・多くの子どもがクイズに興味をもち、関心をもって課題に取り組みました。
- ・ワークシートの活用は、書くことが苦手な子どもにも効果的でした。
- ・資料等を黒板にテンポ良く貼りながら展開することで、多くの子どもたちが集中や関心を途切れさせることなく学習に参加できました。
- ・座席の配置や活動時のグループ編成を配慮し、教師が発問等を精選することで、多くの子どもたちが落ち着いて参加することができました。
- ・話し合い活動では落ち着きのなくなる子どもがいます。主発問を明確にし、話しやすい状況を作ることが大切です。

授業例4 ～「見て」わかる授業～

教科名：算数科1（小学校4年生の少人数学習）

学級38人を少人数による2グループで算数科の授業を行いました。通級する子ども2人を含むグループに通級指導教室担当者も入り、教師2人体制で指導しました。少人数集団での学習は、静かな環境の中で個人の課題に迫ることとともに、考え方を言語化する指導の時間も多く設定するようにしました。また、板書や教材等を見てわかる工夫をするとともに、「わかりやすいノートづくり」にも取り組みました。

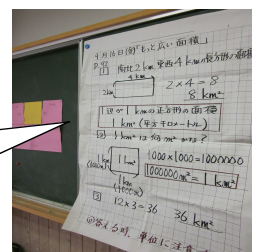
指導案

時間	学 習 活 動	○指導の工夫 ◎個別の配慮 ☆評価
開始	日付・単元名等を書く。	○教室移動があり、揃うまでの時間を有効利用する。 ☆授業に対する気持ちの準備ができているか。
導入	前時の学習を思い出す。	○全員起立し、考え方や公式等を覚えている場合は着席する方法で前時の学習を思い起こす機会を作る。 ☆前時の学習内容はどれほど定着しているか。
展開	発問に対して答える。 板書内容をノートに写す。 板書内容の空白部分を埋めながらノートに書く。 練習問題と宿題の直しをする。	○設問によって、指名の方法を変える。 (挙手あり・挙手なしの指名やランダム指名など) 必要に応じて、ペア・グループ討議を行う。 ○板書はノートと同じ様式を模造紙の大きさに拡大して記入する。板書を写す時間を別に設ける。 ☆板書の通り、1マス1字でノートに書いているか。 ノートに写すことで、学習した内容を理解し振り返ることができているか。 ◎1人でできない場合は、サポートする。 ☆学習内容を理解できているか。 ○T2も机間巡視し、必要に応じてアドバイスをする。 宿題の直しは、その日の内にできるように配慮する。



三角形・三角定規

求める面積の形の具体物
教科書の図・形・グラフなどの
拡大コピー



授業を行って

- ・「わかりやすいノートづくり」は、色分けする、直線を引く、余白を作るなど具体的な書き方を指導するとともに、板書通りに書いているか教師が確認しました。「わかりやすいノートづくり」は、子どもたちのより高い理解につながりました。
- ・考える時間と書く時間を分けることや指名方法を適宜変えること、ペア、グループでの話し合い活動を設定することで、子どもたちが学習に集中できるようになりました。
- ・通級指導教室担当者も指導に入ることで、通級する子どもの集団内での様子や課題を把握することができ、通級指導教室と連携した指導ができました。集団と個別学習のそれぞれの利点を活用し、通級指導教室では振り返り指導を中心に行いました。
- ・正しい答えが分かっているも、解き方を順序立てて表現できない子どもがいます。文章で書いたり、言葉で説明したりする場面を意識的に設定することが必要です。

授業例5～様々な感覚を活用する授業～

教科名：算数科2「たしざん」（小学校1年生）

小学校1年生 24人の学級です。4月頃は10までの数唱が困難な子どもなど、数の理解に大きな個人差がありました。また聞くことに困難さを示す子もいました。

そこで、平仮名の学習を終えた時期と合わせ、必要な算数用語や数を記入するワークシートを数種類用意するとともに、体を使って動作したり、具体物の動きに着目させる取組を取り入れました。また、授業後の感想や、答えの根拠を言葉で説明する活動を通して「表現する力」を育てる取組も行いました。

指導案

時間	学習活動	○指導の工夫 ◎個別の配慮 ☆評価
5分	1 前時の復習をする。 2 本時のめあてを確認する。	○たし算言葉を提示しておく。 あわせて ふえと みんなで くると ぜんぶで いれと ○算数係りを中心に合併と増加の意味を動作で表現させる。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> たしざんのしきにかいたり、おはなしをつくったりしよう </div>		
15分	3 合併と増加の場面を理解する。 ・どんな式になるか考えましょう。 3 + 4 = 7 4 + 3 = 7 5 + 3 = 8 3 + 5 = 8 ※「みんなで」や「ぜんぶで」はたし算で表せることを知る。 ・ブロックの動かし方に違いはありますか。	配慮 ◎式が書けない児童には、指導者の赤ペンをなぞらせる。 ○ゆっくり読み、たし算言葉を意識させる。
20分	4 問題作りによって、たし算を理解する。 ・絵を見て3 + 2になるお話をつくりましょう。 ※3個あるものと2個あるものを考える。 書き出しの文を参考に問題を作る。	☆合併と増加の場合の数図ブロックの操作の違いを意識しながら、たし算の式を作ることができる。 ○ワークシートを活用することで、どの子も問題作りができ、意欲も持続させる。
5分	5 学習のまとめ	☆「あわせて」「くると」などの言葉を使い、3 + 2になる問題を作ることができる。

授業を行って

- ・数図ブロックを利用したり、合併や増加の意味を動作で表現することによって、たし算の理解を深めることができました。
- ・ワークシートの一問目を全員で考えたことにより、理解の困難な子も積極的に参加することができました。
- ・板書の文字を大きく、少なくし、視覚的に分かりやすくすることが大切です。